人権推進部だより

1月14日発行
西条東中学校
PTA人権推進部

いつも人権推進部の活動に御理解と御協力をいただき、ありがとうございます。
今回は、西条市人権・同和教育講座に参加された方の感想、ハンセン病問題に関する講演会を聞いた1年生の感想を紹介します。

西条市人権・同和教育講座に参加して

「性別でみる多様性と人権～LGBTだけじゃない！誰もが実力発揮できる社会へ～」

（ダイビーノン代表　飯田　亮瑠氏）

○　今回の研修会で、性の多様性とは自分の認識よりもはるかに複雑で多様だということを知りました。自分が思っている「普通」が正解ではないということを改めて実感し、とても心苦しくなりました。自認する性に悩み、声を上げられない人がたくさんいる。多様派の枠にはめることなく、個人を尊重し、話を聞き、相手を知り、寄り添うことで、個々が自分らしく生きられる社会に近付くのだと思いました。普段、何気ない言葉が無意識に相手を傷付けているかもしれないということを、発言する前に考え、想像することを心掛けたいと思いました。

○　私もいつのまにか「無意識の偏見」をしてしまったことに気が付きました。子ども達にも「女の子だから」「男の子だから」とよく言ってしまっていました。自分では差別するつもりがなくても、相手にとっては傷付く言葉を使ってしまっている時があるかもしれない。これからは言葉を発する際に気を付けていきたいと思いました。

○　ジェンダー/セクシャル・バイアスは「性によってこうあるべき」と決めつけてしまう偏見、アンコンシャス・バイアスは「無意識の偏見」など、今まであまり耳にしたことがなかった言葉の意味を学んだ。また、先生は「一人ではない。助けてくれる人がいる。」とも話された。みんなが自分らしくあることを諦めなくてよい社会になるよう、自分ができることは何だろうと考えるきっかけになった。

○　これまで、性の多様性に関する研修をあまり受けてこなかったので、貴重な経験になりました。一口に「性」と言っても、非常に複雑になっているということを改めて感じさせられました。研修の最後に言われていた「あなたの”知らない”が命を追い詰める可能性、あなたの”知っている”が命を救う可能性」という言葉が、様々な人権課題を解決するために重要であると感じました。

ハンセン病問題に関する講演会

11月28日（金）、１年生はNPO法人木村留里子先生をお招きして、ハンセン病問題についての講演会を行いました。講演会を聞いた１年生の感想を紹介します。

○　私は講演会を聞いて、一番印象に残った言葉があります。それは西条市に帰ることができない人がいるという現実を知らず、「帰ることができない市」を作ってしまったのは自分たちだ、他人事でない、という部分です。私も小学校で学んだことはたくさんありましたが、「自分の責任」としてみることができない部分があり、心にささりました。国がやめても国民の差別は消えない。そんな世の中でこのように考えることは大切だと感じました。これからの生活につなげていきたいと思います。また、「自分たちにしかできないこと」も大事にしていこうと強く思いました。

○　私はハンセン病について「自分はもう十分知っている」と思っていました。でも、今回話を聞いて、たくさんの新しいこと知ることができました。特にプロミンができたのに薬を与えないとか、真っ白な液で消毒されるというところが、とてもびっくりしました。ハンセン病は「こわい病気」とたくさんの人が勘違いして、たくさんの人が傷ついたと思います。今後ほとんどのハンセン病の元患者さんは、高齢のためやがて亡くなっていくと思います。「ハンセン病の方がいなくなったからいい」じゃなくて、これからもみんなが知っていくべきだと思います。ハンセン病問題だけじゃなく、周りにすぐ流されず、正しいことを知っていきたいと思います。

○　講演会を聞いて、私が一番心に残ったことは、「家族に迷惑をかけるから、西条に帰るつもりはない。自分達のふるさとは大島青松園だ」という言葉から「生きていてよかった」に変わったところです。私たちの小さな行動から始まる差別を、小さな行動で変えることができるのなら、自分自身の行動をよく見直して、これからの行動につなげたいです。私は「この人はいやだな」と、あまり理由もなく避けることがあるので、まずそういうところを変えていきたいです。私は市民のつどいの人権劇を観たことがあります。次も見に行きたいです。

○　今回の講演会で私が一番心に残ったことは、一番最後の言葉です。１つ目が「私たちには命を救う力がある。２つ目が「私たちには大人を変える力がある。」そして３つ目が「私たちには自分自身を変える力がある」です。心に残った理由は、その３つの言葉、１つ１つにそれぞれエピソードや実際に見たこと、思いが込められていると感じたからです。私は「命を救う」ということは無理かもしれないけれど、「大人を変える」と「自分自身を変える」は私でも達成できると思います。「大人を変える」は親や近所の人、地域の人、イベントやボランティアに参加していれば、話すなどの機会があると思います。「自分自身を変える」は、自分の考えを自分で改めてみたり、様々な人と意見を交換してみたり、いくらでも自分は変われると思うからです。私も木村さんのように誰かに伝えていけるようになりたいです。